

(様式1)

平成29年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

(整理番号) 006	提案機関名 畜産課
要望問題名 豚ふんにおける主な臭気成分に対し効果のある消臭剤の検証	
要望問題の内容 【 背景、内容、対象地域及び規模（面積、数量等） 】 平成27年度までの試験研究において、養豚場において豚ふんは主要な臭気発生源であると推定され、豚ふん由来の臭気成分の内、プロピオン酸、ノルマル酪酸、p-クレゾール、スカトール、3-フェニルプロピオン酸の5物質が豚舎・豚特有の悪臭と評価されたとの報告である。 現在まで畜産経営内において除ふんなど、適正な管理だけでなく消臭剤による悪臭対策(マスクング法や吸着法など)は実施されているが、消臭の作用機序が明確でないものが多く、農家によって効果が異なることが分かっている。 そこで、豚舎特有の主な臭気成分であるこれら5物質を対象とし、それぞれの臭気成分に効果の高い消臭剤の検証をお願いしたい。それぞれの臭気成分に対し効果の高い消臭剤を選定することで、消臭剤を効果的に使用でき、周辺住民との調和がより一層図られると考えられる。	
解決希望年限	①1年以内 <input checked="" type="checkbox"/> ②2～3年以内 ③4～5年以内 ④5～10年以内
対応を希望する研究機関名	①農業技術センター <input checked="" type="checkbox"/> ②畜産技術センター ③水産技術センター ④自然環境保全センター
備考	

※ ここから下の欄は、回答者が記入してください。

回答機関名	畜産技術センター	担当部所	企画研究課
対応区分	①実施 <input checked="" type="checkbox"/> ②実施中 ③継続検討 ④実施済 ⑤調査指導対応 ⑥現地対応 ⑦実施不可		
試験研究課題名 (①、②、④の場合)	畜産経営から発生する悪臭成分抑制技術の開発 (H28～30)		
対応の内容等	ご要望の豚舎特有の主な臭気成分5物質を対象とした消臭剤の検証ですが、個々の臭気成分を対象とした資材は現在市販されておりません。今後市販された場合には、その効果判定を検討したいと考えております。 また現在上記5物質を含めた基準臭の作成を進めております。その中で上記5物質を含めた官能に強く作用する臭気成分やふんのpHを調整することでふんからの揮散状況が異なることが明らかになりつつあります。 今後は、官能的に低減効果が大きい悪臭成分に対しての悪臭低減技術を検討して参ります。		
解決予定年限	①1年以内 <input checked="" type="checkbox"/> ②2～3年以内 ③4～5年以内 ④5～10年以内		
備考			